

読んでみよう



103ページでとり上げているものです。あなたにとって、はじめて知ることはありませんか。

鳥になった

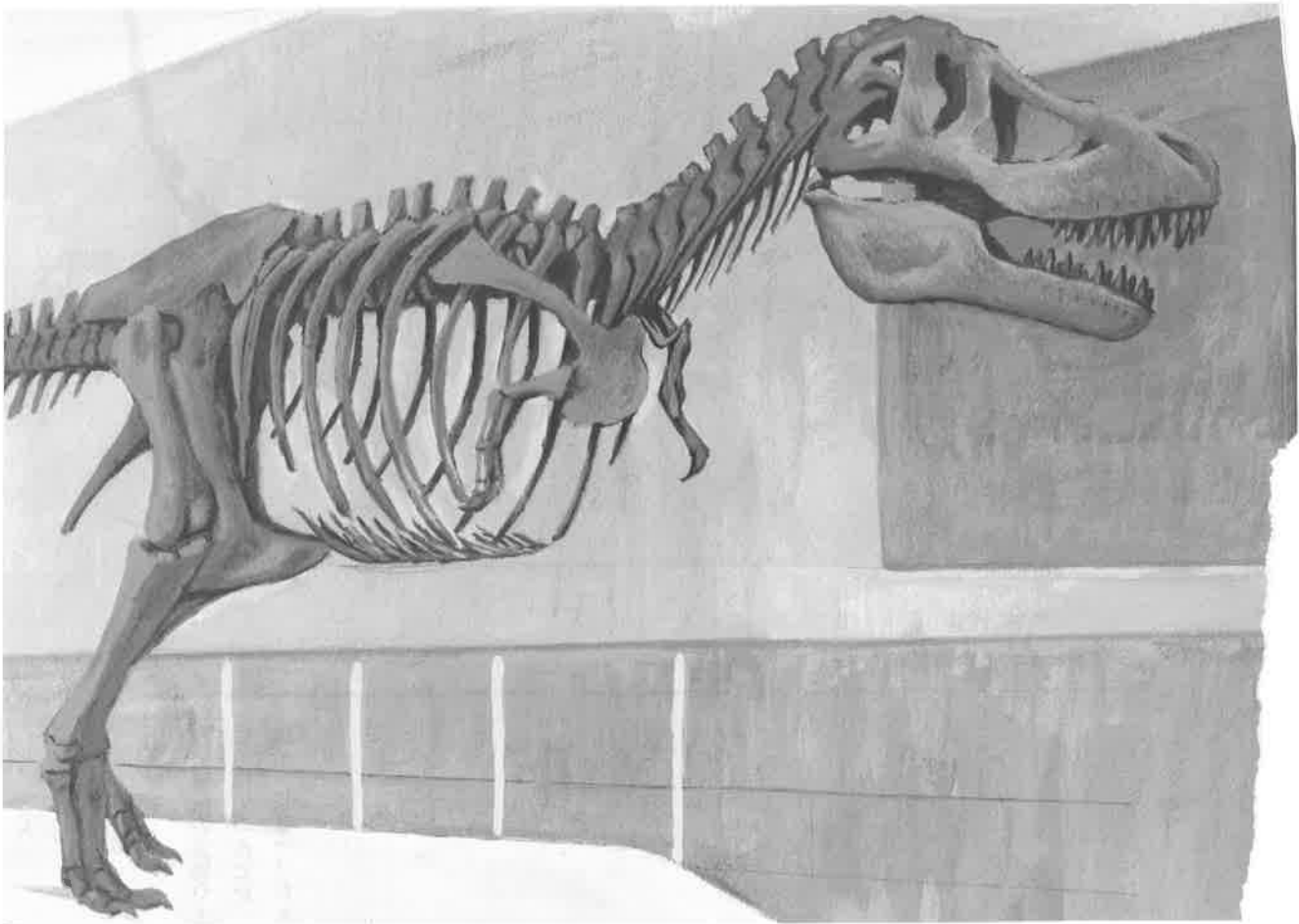
きょうりゅうの話

おおしま えいたろう
大島 英太郎 文・絵

あなたは、きょうりゅうの化石を見たことがありますか。

はくぶつ館などにあるきょうりゅうのほねの化石を見ると、わたしたちはその大きさにびっくりさせられます。こんなに大きな生き物たちが、本当にいたの

5



です。

きょうりゅうがすんでいたのは、ずうとずうと大昔のことです。そのころの地球はとてもあたたかくて、きょうりゅうたちにとってはくらしやすい所だったのです。

きょうりゅうには、植物を食べるものや、ほかのきょうりゅうをおそって食べる肉食のものなど、いろいろなしゅるいがありました。見た目もさまざまで、体がかたいうろこにおおわれているものもあれば、ふさふさとした羽毛が生えているもの、そのりょうほうをもつものもいました。

ところで、きょうりゅうは、みな大きい

かったわけではありません。なかには、ねこや犬ぐらいの大きさのきょうりゅうもいて、すばやく走り回りながら、とかげやねずみに似た動物などをつかまえて食べていました。これらの小さなきょうりゅうたちにも、羽毛が生えているものがありました。

やがてそれらの中に、木の上でくらすものがあらわれました。木の上なら、地面の上とちがってきにおそわれることも少ないし、えさとなる虫などもたくさんいたからです。

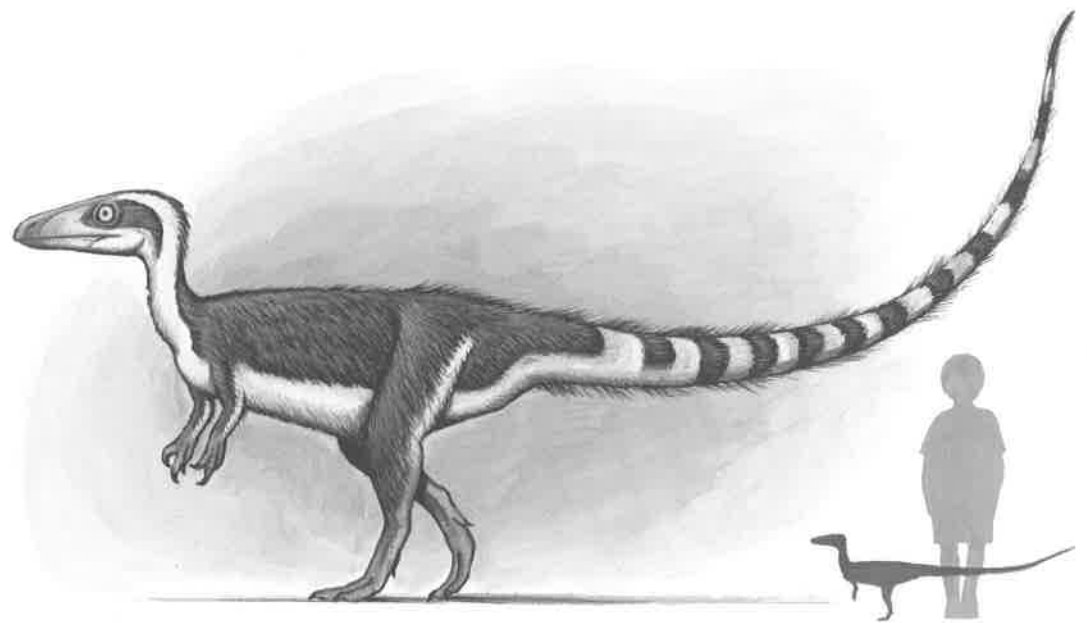
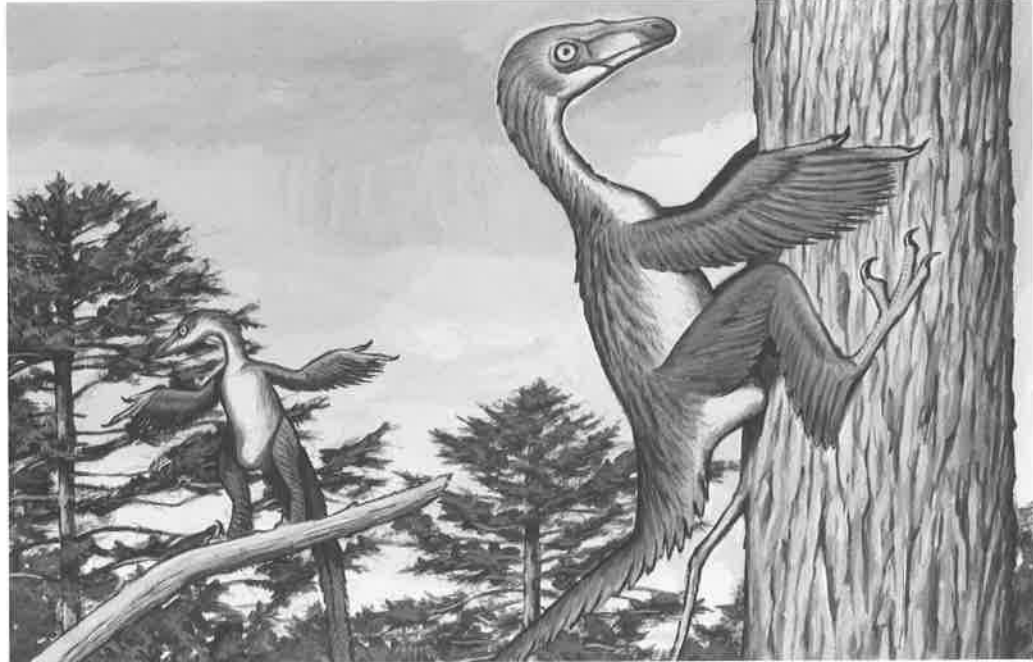
これらのきょうりゅうは、体がかかるかったので、手あしをバタバタと動かして木に登ることができました。

木の上で生活をはじめたきょうりゅう

15

10

5



15

10

5

化石
古い時代の生物や生物の生活のあとが、地中にのこされたもの。

たちのしそんは、とても長い年月がたつうちに、木から木へととびうつつてくらすようになりました。

そして、それらのしそんの中には、手あしに生えている羽毛が長くのびて、つばさの形になったものがあらわれたのです。

やがて、空をとべるようになったきょうりゅうたちは、食べ物をもとめて遠くまでとんでいくようになりました。

そのころの地球では、地上を歩く大きなきょうりゅうと、つばさのある小さなきょうりゅうとが、いっしょにえさをとるすがたが見られたことでしょう。

ところが、今から六千六百万年ほど前

のこと、地球の様子が大きくかわり、大きなきょうりゅうのなかまはほとんど死にたえてしまいました。けれども、つばさを持ち、とぶことのできる小さなきょうりゅうのしそんだけは、生きのこりました。そして、これらのきょうりゅうは、今でもすがたをかえて生きているのです。

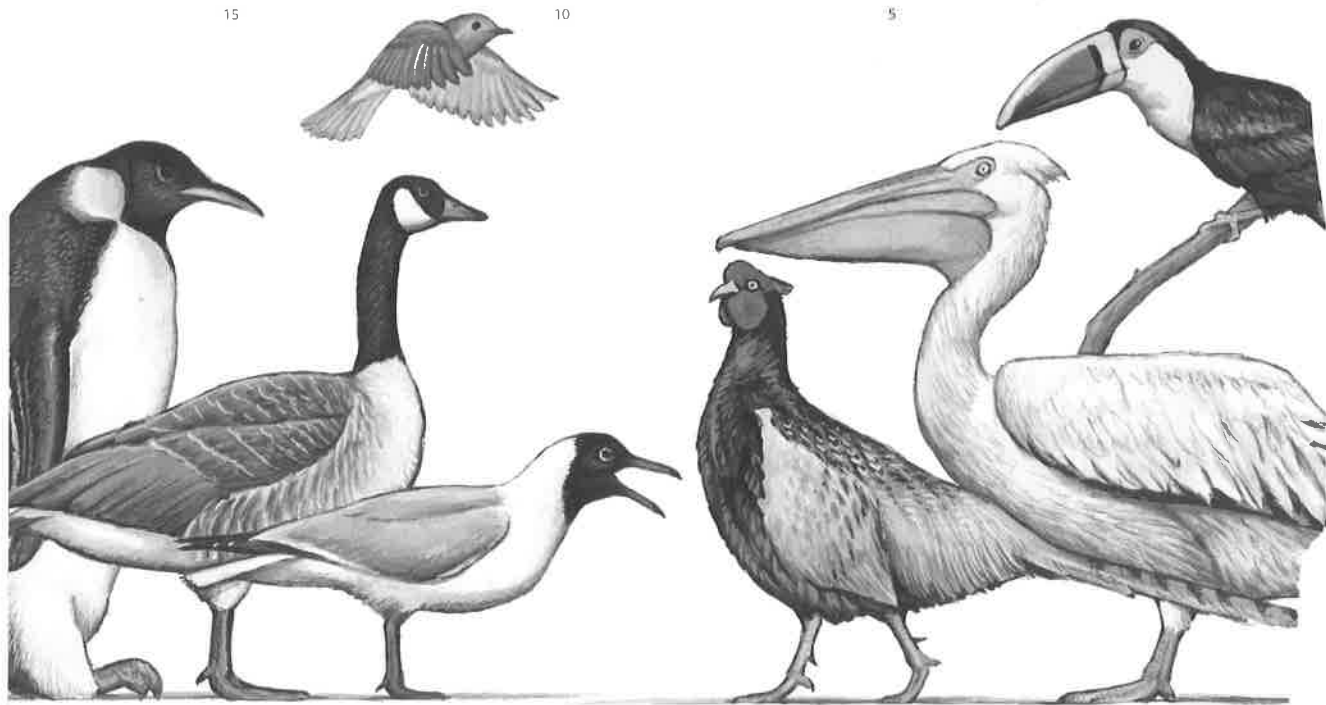
それが鳥なのです。鳥は、生きのこったきょうりゅうだったのです。

鳥ときょうりゅうとでは、ずいぶんちがっているように見えますね。でも、ほねやあしのつき方など体のつくりをよく調べてみると、とてもにているのです。

大きさはどうでしょう。ほとんどの鳥は、きょうりゅうよりずっと小さな体を



死にたえる



しています。なぜ、鳥たちはこのように小さくなったのでしょうか。

それは、空をとぶには小さくてかるい体のほうが都合がいいからです。また、小さければ食べ物も少なくてすみます。小さくなった鳥は、花のみつや草のたねなど、ほんの少しのえさを食べて生きていけるようになったのです。



5

ところで、鳥の中にはとてももうつくしい羽毛をもつものもいます。昔のきょうりゅうがどんな色をしていたのかは、長い間、そうぞうするしかありませんでした。しかし、手がかりがのこった羽毛の化石が見つかり、少しずつきょうりゅうの色が分かってきています。もしかしたら、おしどりのように色あざやかなきょうりゅうもいたかもしれませんね。

10

昔々大昔の地球を歩き回っていたティラノサウルスやブラキオサウルスなどの大きなきょうりゅうたちは、もういません。けれどもそのかわり、鳥という小さなきょうりゅうのなかまは、今も元気にこの地球で生きています。

15

都合

おしどり
かものなかまで、おすはうつくしい色の羽をもつ。

ティラノサウルス
全長やく十三メートルになる、大型の肉食きょうりゅう。

ブラキオサウルス
全長やく二十五メートルになる、大型の草食きょうりゅう。



ティラノ
サウルス

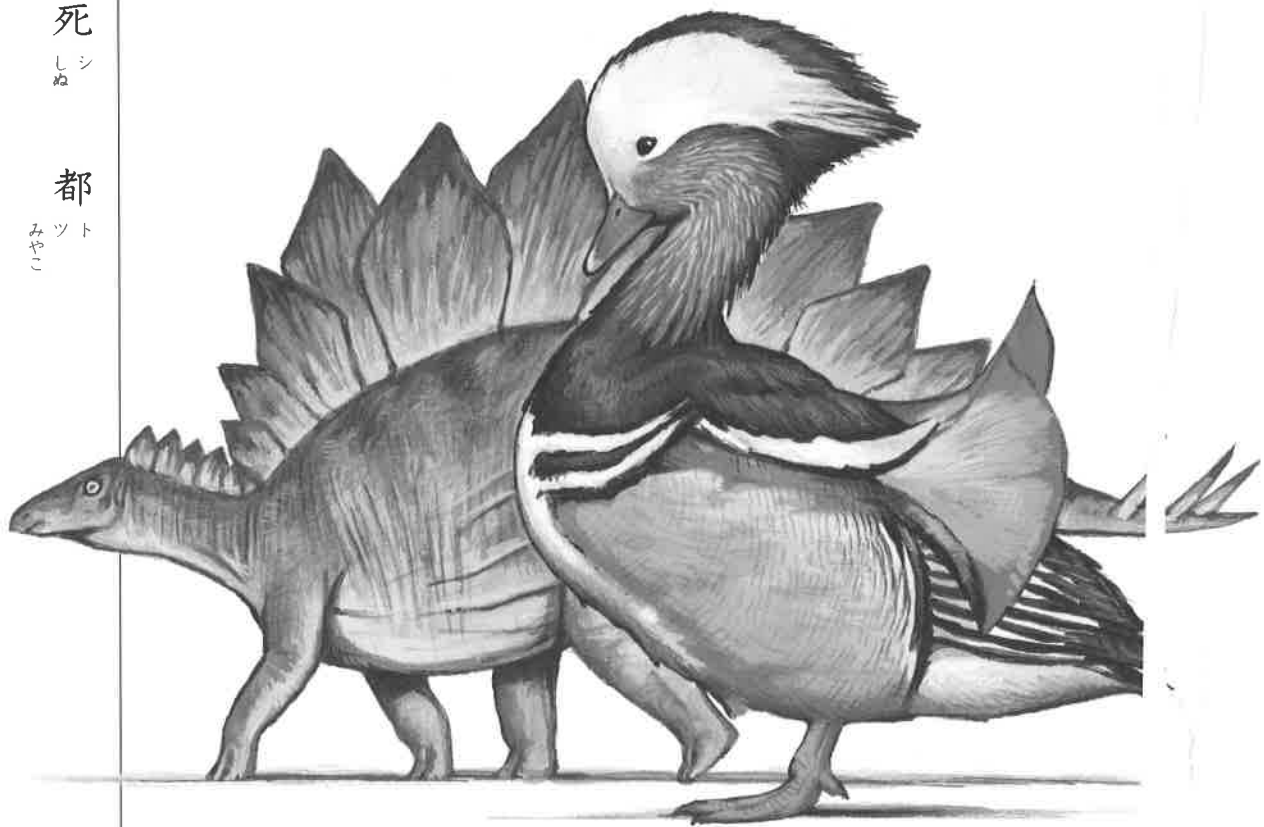
植
シヨク
うえる
うわる

集
シュウ
あつまる
あつめる

化
カ
はける
はかす

死
シ
しぬ

都
ツト
みやこ



大島 英太郎
一九六一年、栃木
県生まれ。絵本作家。
「羽毛恐竜」などの
作品がある。

156
ページ